

安曇野市男女共同参画推進審議会 会議概要

1	会議名	第4回 安曇野市男女共同参画推進審議会（第6期）
2	日時	令和元年7月31日（水）午後1時30分～午後3時30分
3	会場	安曇野市役所 3階 共用会議室 307
4	出席者	田中委員、丸山委員、有賀委員、小松委員、三溝委員、鈴木委員、三好委員、山崎委員、猿田委員、尾碁委員、等々力委員、佐々木委員、久保田委員、田村委員、橋住委員（欠席委員）安田委員、高井委員、二木委員、秋山委員
5	担当課出席者	金井総務部長、平倉課長、小笠原課長補佐、塩原主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和元年8月2日

協 議 事 項 等

【協議事項】

- 1 開 会
- 2 審議会委員委嘱書交付
- 3 会長あいさつ
- 4 協議事項
  - (1) 第3次安曇野市男女共同参画計画の進捗状況について
    - 第3次安曇野市男女共同参画計画（平成30年度実績報告）
    - 第3次安曇野市男女共同参画計画（令和元年度目標値）
  - (2) その他
- 5 その他
- 6 閉 会

【会議概要】

- 4 協議事項
  - (1) 第3次安曇野市男女共同参画計画の進捗状況について

【要旨・主な意見】

事務局：第3次安曇野市男女共同参画計画（平成30年度実績報告） 説明

会 長：前回「意識づくり」について意見が無かった。その点の意見をいただきたい。

委 員：(31) 東京オリンピック・パラリンピックホストタウン登録事業の遂行について、カヌーの羽根田選手はじめ、外国から女性の選手も来た。ホームタウンであることをPRし、安曇野市も協力していることを発信すべき。

会 長：先日、集計結果が公表された「男女共同参画」の認知度アンケートについてはどうか。

委 員：グラフを見ると、「男女共同参画」の認知度は60代以上の世代が多い。時間的余裕があり、様々な会合に参加している世代。一方、若年層が「男女共同参画」という言葉を知らないことが心配。今後は若い世代が参加したいと思うイベントを考える必要がある。

委 員：「知らない」方は多いと思う。広報が各家庭に配布されているが見なければ知ることもない。どうやって関心をもたせるかが課題。「知らなければ、知らないままでいいや」と思う人に、どのように意識づけていくかが課題である。

委員：男女共同参画だけでは興味がある人しか来ない。地域づくり課など、「まちづくり」に携わる課と連携することで、NPO や区が関わるができる。より知名度を上げるため、関連した所への情報発信も必要。

会長：区長会の中で、「男女共同参画」が話題になることはあるか。

委員：地域の中では課題がたくさんある。特別「男女共同参画」は議題に挙がらないが、公民館活動の啓発講座等で行うこともできるので、「男女共同参画」の認知度の向上に寄与できるのではないか。

委員：以前、社会教育に関わった「人権教育」は言葉が堅い。身近な課題でも、難しい言葉は敬遠されがち。公民館活動での講座は、根本に「人権」がある。その1つとして「男女共同参画」もある。テーマだけ見れば地域での関心は高い。

委員：学校において、子どもたちは「男女」というより、「自分と違う」相手を理解することに重点を置いている。職員においては、認知度は高い。教員の研修では人権に係る研修の機会はあるが、男女共同参画に特化した内容の研修は無い。

会長：若年層に「男女共同参画」を知ってもらうような工夫が必要。

委員：行政だけが「男女共同参画」を主張しても効果は低い。働き盛りの人に訴えかけるには、勤務先である企業に協力してもらうことで、周知されていくのではないか。

委員：若年層が「男女共同参画」を知らないケースが多いと感じる。ある会議で、新入会員の30～40代の方々は、会の中で勉強して初めて知った人もいる。勤務先で「この会議に行ってきます」と言っても会議の趣旨を理解できない人もいる。本日の会議の話を帰ってほしい。また、部署や団体などとの連携も重視して取り組むことは良いことだと思う。

委員：男女共同参画は、多岐にわたる。単語は知らなくても風土は地域の中で徐々に浸透しつつある。事例紹介を通して具体例から学ぶことを、行政に考えていただきたい。資料の中では表せない事も多いと思う。

会長：成功事例を紹介して欲しいという意見も、前は多かった。先日のフォーラムの中で、鈴木委員が公民館長として登壇いただいた時、連携の重要性について言及された。ぜひ聞きたい。

委員：公民館の使命は、「地域づくり」と「生涯学習」。後者は講座の開催で、来て下さる方の意識にかかっている。前者は、地域に入ると役員が回ってくるなどがあり、敬遠されてしまう。しかし行事などを通し、人と人の繋がりを大切にした活動をしていく中で、楽しいと感じた人もいる。こういう経験も大切だと感じた。

委員：地域の活動で、共同でコンサート等をしている。あいさつの中で、「男女共同参画」と言うのではなく、もっと柔らかなフレーズで、来場者に伝えている。堅い言葉だと理解されない。男女共同参画の思想の普及のため、より分かりやすい表現を重視している。

委員：区長と言う立場に置き換えて考えてみた。現在、区長は2名の女性がいる。次回の候補を見つかるたびに、女性の候補は考えていなかったが、今思うと、おかしいことだと思う。また、地域の公民館で女性館長はここ30年で1名だった。女性が出たとき、これは画期的だと思った。地区の役員に女性はいるのか。というアンケートを出すと、意識も変わってくると思う。

会長：アンケートの項目にあることで、意識が変わってくるということは、その通りだ。

委員：地域づくり課との連携はとても有効だと思う。協働のまちづくりのフレーズを耳にした

が、この言葉に「参画」の必要性もある。また、公民館は地域の活動の土台であり。そこに貢献している女性の力も地域では重要な要素である。

会 長：公民館活動では、女性が重要な役目を担っている。今後はトップに女性が出て欲しいが、なかなか難しい。連携の重要性と「男女共同参画」という、難しい言葉ではなく、理解しやすい言葉で伝えるとの意見があった。

事務局で提示した各部署の目標や実績があるが、気になる所はあるか。

委 員：50代以上において「男女共同参画」の認知度が高いが、若年層の認知度が低いことが課題。なぜ若年層が「男女共同参画」という言葉を知らないかが疑問だ。若い人達が「男女共同参画」について理解し、実践できる社会の実現を望む。

会 長：今後、若年層が、男女に区別なく自分のやりたいことができることが国の発展になると思う。子どもの頃から男女共同参画の意識を「分かりやすく」「簡単」に学習し、身に付けることが大事。市では高校生向けの講座の開催のみ。さらに若い年代の子どもたちが楽しんで学習できる機会が必要だと思う。教育関係者との連携が理想だ。

事務局：今年度、県男女共同参画センターと連携し、「パパの子育てセミナー」を初めて開催した。若い世代の参加があり、家事育児についてやワークライフバランスについて、啓発をはかった。

委 員：男女共同参画の語句は知っていたが、内容について、深く知らなかった。企業人権について、私も子育て中の共働き世帯。先日、勤務先で子どもの都合で休みたい時、嫌味を言われた。働きやすい環境になって欲しい。公民館活動について、最初は面倒であったが「楽しかった」言える時もある。夫は育児や家事に協力的。しかし「夫は外で働く者。妻は家のことを行う者。育児も妻の責任」と言う人もいる。世代の中でも変えていけるよう、取組みを考えて行けたらと思う。

委 員：民生委員の状況は、三郷は男女半々。

湧愛は、どのような趣旨で作成されているのか。

事務局：啓発広報紙として作成。企業訪問、講演会の開催時等で啓発資料となるようコミュニケーションを中心に編集し、発行している。

委 員：更なる活用を検討いただきたい。

委 員：地区の公民館長の経験がある。役員は女性。男性は仕事で出られない。と言われたことがある。女性でも役はできるという自信をつければ増えると思う。

事務局：第3次安曇野市男女共同参画計画（令和元年度目標値） 説明

会 長：商工労政課で説明のあった、スキルアップの講座についてはいかがか。

事務局：(19) 商工労政課では在宅ワークに係るテレワーク事業を検討中。今後の予定を注視していきたい。

会 長：テレワークが推進され、在宅ワークにも対応する企業が増えている。

企業に男女共同参画の考えが浸透すれば、スキルを身に付け女性の社会復帰が進む。3市合同だけでなく、安曇野市独自のスキルアップ講座を行うべきだと思う。

委 員：私の事務所では、管理職に女性2人、男性1人。女性の方には30年以上勤務して頂いている。子育ての時期2年育児休業を取得。そして今、介護で休暇をもらうこともある。

男性従業員も1か月ほど育児休業を取った。各自の事情に合わせ、従業員と仕事の融通をしている。パートの方でやる気のある方を正社員とした事例もある。他にも頑張る企業の事例を知りたい。

会 長：模範となる企業の事例紹介は大切。フォーラムで登壇いただいたデンソーエアクルさんは、県知事表彰を受け頑張っている企業。市独自で、表彰・紹介できると良い。働く女性が増え、児童クラブの利用も多く、受け入れ人数が飽和状態になっていることも課題。職員やボランティアの確保等も課題となっている。

計画後半に入る前に課題があると思う、ご意見をお聞きしたい。

委 員：SNSの利用について、市のホームページの内容では「若い人」は興味を持たない。上手に活用して頂きたい。

会 長：男女共同参画推進会議について、規約が改正され、企業が入れる枠を作ることになった。ぜひ加入をしていただきたい。

委 員：多文化共生について、特定技能という就労資格が7月1日から加えられた。安曇野市にも多くの外国人が住むと思われる。近所に住むのが困る、という意見もあるが、日本語教室の中で文化も学ぶことができれば、外国人住民の暮らしも変わる。

会 長：以上で議事を終わります。

## (2) その他

事務局：次回開催は3月に予定している

一 同：了解